

「大役を終えて」

「なんで？お前がそんなことしよるんか？」とか「お前、食べていけないのか？」とかお客様にも心配されながらも、伊都倫理法人会の会長職を全うできそうな高野です。

倫理法人会は全国に 7 万社、福岡県下でも約 4000 社が集結する経営者団体で、私が糸島を中心に活動する伊都倫理法人会の会員 115 社を束ねる会長職を任されたのは 3 年前のこと。

この会長職は、原則、個人事業主はNG。これは多分、会長職という「役」が、人を雇う経営者のシミュレーションゲームみたいなものだからでしょうね。

ところが様々な事情もあって、特例で私がさせていただくことになりました。

「会長をすると大変なことが沢山起こるよ」と言われた通りでした。家庭では、母と同居しての介護生活が始まり、娘の高校受験。そして実家の売却から母を施設へ入れる決断まで目まぐるしい3年間でした。

仕事の合間に会の活動、そして子ども達や母の送迎に飛び回っていました。

今思えば家族の結束が試されていたようにも感じますし、それが出来たからこそ上手く行ったのだと思います。

また、本業とは別に、事業をやっているような感覚にも陥りました。役を受けることで、負荷がかかり、今までにはない集中力、直観力のようなものも身に付いたように思います。そうでもしないと仕事が回らないからです。

それに会の活動はボランティアなので、どんだけやっても金銭は得られません。むしろやればやるほど、自分の首を絞めることになります。

それは会長以外の幹事さんも同じです。だからこそ給料を渡さなくても働いてもらえるよう接し方が求められました。

それは金銭ではない報酬を感じてもらうことです。当初は「やりがい」をどうやったら理解してもらえるかばかり考えていたのですが、教育や説得では、人は動いてくれませんでした。人は皆、指示されるのが嫌だからです。

そんなことよりも指示を出す自分が「笑顔」でいることの方が大事で、さも簡単かのように難しいお願いをすることこそ、人に動いていただくコツなのかな？と思い始めた矢先での卒業です(笑)。

お陰様で会長に求められた「仲間作り」の目標は3期連続で達成しましたし、それを通じてかけがえのない人脈もできました。

我欲を捨てて仕事と同じように取り組んだからこそ、今まで見えなかった世界が見えるようになりました。

幹事さんはじめ、支えてくれた全ての方にこの場をお借りして御礼申し上げます。